

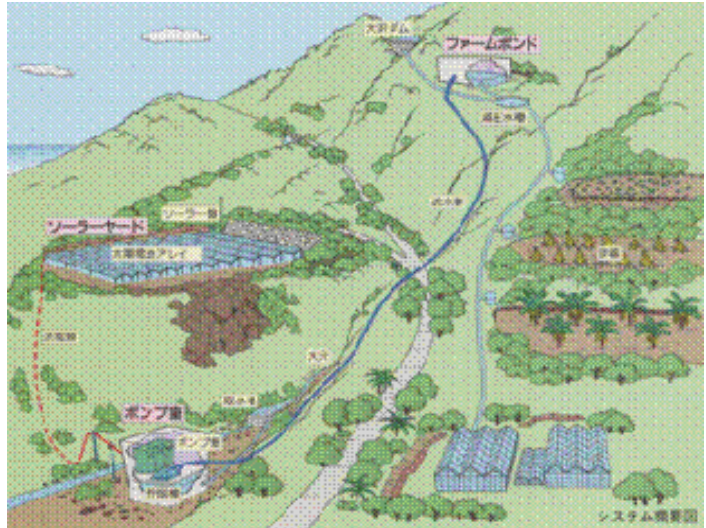
○ 母島 大沢ソーラーポンプシステム

母島の大沢水系には、環境にやさしいかんがい施設として、西浦の海岸線に近い場所に太陽光発電による揚水ポンプ施設を設けています。(平成3年4月供用開始)

母島にある農業用水の水系の一つである大沢水系は、かつて、大沢ダム(堰)を唯一の水源としていましたが、貯水量が約600tと少なく、安定的な水源の確保を必要としていました。

そこで、大沢下流に枯れることなく湧き出す水源を農業用水に利用する水資源開発を計画しました。

大沢ソーラーポンプシステムは、低い位置にある湧水を高い位置に揚水して(高低差約160m)、自然水圧により送水管で農地に給水します。



この施設は、環境にやさしいエネルギーである太陽光を揚水ポンプの動力源にしており、CO₂などの温室効果ガスの排出を抑制する利点も有り、小笠原の自然環境に配慮したものとなっています。

ソーラーパネルで29kwを発電